

さくら



令和5年7月3日(月)

七夕（たなばた）



7月7日は七夕です。昨日、22時頃に夜空を見上げると。南の空には満月が輝いていました。その西側にはさそり座のアンタレスが赤い光を放っていました。視線を南東方向にやると、七夕の主人公である牽牛星（けんぎゅうせい）と織姫星（おりひめぼし）が明るく輝いていました。牽牛星はわし座のアルタイル、織姫星はこと座のベガです。小学校では、はくちょう座のデネブと合わせて、夏の天三角（形）として学習しています。

七夕伝説は奈良時代に中国から伝わりました。その内容は、皆さんも一度は聞いたことがあると思います。

天帝（天の神様）の娘の織姫は、牽牛（牛飼いの青年）と結婚しました。ところが、その後、織姫は大切な機織りの仕事をきちんとしなくなってしまうのです。このことが天帝の怒りに触れ、二人（牽牛星と織姫星）は天の川をはさんで兩岸に引き離されてしまいます。しかし、一年に一度だけ会うことを許されます。その日が7月7日なのです。

七夕は日本に入ってきた当初、貴族の行事であったと言われています。優雅で煌びやかなものであったに違いありません。時は流れ江戸時代になり、七夕は習い事などの上達を願う庶民の文化として広がっていきます。「お習字が上手になりますように」「三味線がうまく弾けるようになりますように」など、思いの願いを短冊にしたため、笹につるし天に向けて掲げたのでした。

さて、皆さんの願い事はどのようなものでしょうか。夏の夜空を見上げながら、それぞれの願いが叶うよう、努力することを誓ってみてはどうでしょうか。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

